

「会長退任挨拶」

会長 神林 勲（北海道教育大学札幌校）



この度、会長任期の2期（6年）が終了し、退任致します。6年間、コロナ禍もあり紆余曲折の学会運営でしたが、役員の方々や会員の皆様に支えられ、何とか乗り切ることができました。この紙面をお借りしてお礼申し上げます。あり

がとうございました。

6年間で最も大きな仕事だったのは、学会70周年兼第60回記念学会大会の開催です。コロナ禍での開催ということであり、対面での開催が危ぶまれました

が、オンラインの併用により対面開催で実施することができました。個人的には多くの参加者数や発表数の中で盛大にという思いがありましたが、混乱の中、1年延期された状況であったことを考えれば対面開催できたことを素直に喜びたいと思います。

最後になりますが、今後は新会長のもと、北海道体育学会が益々発展し、北海道や日本の体育、スポーツおよび健康科学に貢献し続けることを祈願しております。私も「現状維持は衰退である」を胸に、退任後も学会活動を通じ教育・研究に貢献できればと思います。

「来期もよろしくお願い致します！」

理事長 石澤 伸弘（北海道教育大学札幌校）



次年度より北海道体育学会の会長を仰せつかることとなりました。よろしくお願い致します。北海道体育学会（以下、当学会）は昭和26年の設立からこれまで一貫して、道内における体育・スポーツの中核的研究組織として歩を進めて参りましたが、近年ではわが国を取り巻く社会環境の急速な変化とともに、道内においても高齢化や少子化、そして人口減社会などの課題が顕在化してきているところです。

こうした社会環境の下で、将来を担う子供たちがスポーツを始めるための方策や、現在行っているスポーツを継続するための方策、さらには、指導者の確保や学校の

統廃合などで生じてくる部活動の広域化などにも対応した「北海道型」の体制構築が急務となってきているといえます。

このような時代だからこそ当学会では、参画した各会員が限られた機会と時間の中で、「体育・スポーツが、われわれの人生や社会にとってかけがえのない確かなもの」として確立していくために、道内・外の関係者と手を携えて、「北海道における体育・スポーツの更なる発展」のために、不断の努力を重ねていくことが求められると考えます。会員の皆さま方におかれましては、当学会の活動に際しまして相変わらずのご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

写真で振り返る「北海道体育学会第 62 回大会」



今年度の学会大会は藤女子大学花川キャンパスを会場として開催されました。



ポスター発表の様子



遠路参加し座長をする関先生@鹿屋体大



教育講演（総合討論）の様子



FWU 女性研究発表賞授与の様子

北海道体育学会第 62 回大会 傍聴記

■ ポスター発表 & 教育講演

大会 1 日目の午後、4 つのポスター発表が行われた。石橋勇司先生（交雄会新札幌病院）は、しゃがみ込み動作をうまくできない児童が増えている現状とその要因について報告された。子どものロコモティブシンドロームは近年問題となっており、その問題には生活習慣を含む多様な要因が絡んでいることが伺われ、引き続き様々な領域の研究者が共同して取り組むべき課題であると感じた。渡部敬介先生（大阪体育大学大学院）は、スポーツ競技者の心理的レジリエンスに関する先行研究の到達点と課題について報告された。アスリートのメンタルヘルスは近年注目されていることもあり興味深く拝聴させていただいた。小松敏彦先生（心・體・智研究所）は、ヒトの下腿三頭筋と足底筋の形態的特徴について、標準写真と模型を用いて報告された。筋束配列の左右差や個体差が大きいという所見は、EMG の計測等に際しては是非思い出したい。小林秀紹先生（札幌国際大学）は、野球

柚木 孝敬（北海道大学）

のストレート投球時には示指と中指の間隔を空ける（2cm）よりも空けない（0cm）方が球の回転数は高く、それが球速の向上にも関連する可能性があることを報告された。このような定量的なデータが現場の投手や指導者にとって有用な情報となることを期待したい。

ポスター発表のあとに開催された教育講演「成長期の女子競技者を支えるコンディショニング」では、寒川美奈先生（北海道大学大学院）と蜂谷愛先生（天使大学）が登壇され、成長期の女性競技者に特徴的な様々な問題（ケガ、無月経など）とそれに対するサポート（コンディショニング支援、栄養指導など）の実情についてお話しされた。「環境と身体が大きく変わる女性競技者の成長期においては、何よりも「健康を守る」という視点に立った支援が重要である」というお話（現状）には深く考えさせられた。

■ 口頭発表

発表演題数は口頭発表 16 演題（うち 1 演題は発表中止）、ポスター発表 4 演題の合計 20 演題であった。口頭発表のうち若手研究者賞の対象発表が 3 演題、藤女子大学での開催を記念して創設された FWU 女性研究発表賞の対象発表が 4 演題、一般演題が 9 演題であった。

若手研究者賞対象発表の演者は吉本香乃さん（酪農学園大学）、永木智子さん（天使大学）、安田純輝さん（札幌国際大学）であった。この中で、教員を志望する学生を対象に教職実践演習前後での教員の資質・能力に関する理解度得点の変化についての調査結果を発表した安田さんが若手研究者賞を受賞した。

FWU 女性研究発表賞は女性会員による研究および女性に関する研究が対象で、参加者の投票によって決定された。発表者は梅田千尋先生（北海道札幌あいの里高等支援学校）、清野宏樹先生（桃山学院教育大学）、苫米地里香先生（北海道大学大学院）、秋月茜先生（拓殖大学北

柴田 啓介（酪農学園大学）

海道短期大学）であった。この中で、アジア・太平洋戦争以前の絵葉書を網羅的に収集し、運動会における女子生徒の種目や写真の特性の変遷について報告した苫米地先生が FWU 女性研究発表賞を受賞した。

1 日目午後に行われた口頭発表 2 のセッションでは、石橋勇司先生（交雄会新さっぽろ病院）、福家健宗先生（北海道医療大学）、土橋康平（北海道教育大学旭川校）から発表があった。2 日目午前に行われた口頭発表 3 のセッションでは、山本悟先生（北海道教育大学釧路校）、矢幅照幸先生（北海道大学大学院）、森博隆先生（釧路町立遠矢小学校）、上家卓先生（札幌市立資生館小学校）、関朋昭先生（鹿屋体育大学）から発表があった。

今大会は 1 日目の夜に懇親会も開催され、学会大会全体がコロナ禍以前の形に戻ったと感じた。また、FWU 女性研究発表賞のように主管の特性を活かした企画はとて有意味で、今後の学会大会でも継続を期待したい。

「若手研究者賞を受賞して」

安田 純輝（札幌国際大学）

令和5年度北海道体育学会第62回大会にて、若手研究者賞を頂戴しましたこと大変光栄に存じます。ひとえに本研究へのご協力を賜りました学生の皆さん、研究対象校の先生・生徒の皆様、共同研究者として携わっていただきました大鐘秀峰先生、平田嘉宏先生、小林秀紹先生をはじめ皆様方のご指導とご支援の賜物でございます。また、選考委員の先生方からも身に余るご講評を頂戴しました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

本研究は、教職課程における必修科目「教職実践演習」にフォーカスしました。教職実践演習は、教員を目指す学生が大学で培ってきた学びを振り返り、教員として最低限必要とされる資質能力の確認を行う科目です。本科目は、「学びの軌跡の集大成」として位置づけられているものの、実情は大学毎に目指すべき教員像や到達目標、授業の運用・展開方法に至るまで多岐に渡っておりました。このような状況において、本科目は、改めて教職志望の学生に対してどのような学びを提供すべきか？といった問いが本研究の出発点となります。

今回の発表を契機として、学会員の皆様と交流・親睦を深められたことは私にとって何よりの財産となりました。

蛇足となりますが、私の専門領域は、体育科教育学・スポーツ教育学です。中でも水泳運動系・水泳に縁がございます。「北海道×体育×水泳」をキーワードとした際、私にできることを暗中模索している所でございますが、本筋とする研究分野の発展にも貢献していけるよう精進致します。

私自身、駆け出しの未熟者ではございますが、この度の若手研究者賞の受賞を今後の糧としつつ、教育研究活動へ真摯に取り組んで参る所存です。引き続き、ご指導ご鞭撻の程、宜しく御礼申し上げます。



FWU 女性研究発表賞を受賞して

「ポスタルメディアを通して見えてきたもの—記録から伝達媒体へ—」

苫米地 里香（北海道大学大学院）

この度は、女子大学で開催する記念として企画された特別な賞をいただき、大変光栄に存じます。本企画に携わった北海道体育学会の先生方、ご講評にて過分なるお言葉を頂戴した藤女子大学の小川恭子副学長に、この場をお借りして御礼を申し上げます。受賞を励みに、引き続き体育・スポーツ史研究に貢献できるよう、精進して参ります。今後ともご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

今回の発表を通じて、自由に運動すらできなかったといわれてきたアジア・太平洋戦争以前の一般女子生徒が、運動・スポーツに興じる姿をポスタルメディアの中に発見でき、眠っていた史料の上に光が灯ったような嬉しさを感じています。少し変色して角の丸くなった絵葉書の中に収められた一瞬一瞬を丹念に見ていくと、100年前の女子生徒たちの生き生きと躍動する姿が運動会の賑わ

いととも鮮やかに立ち上ってくるようでした。「成年男子入場を拒絶す」とされたからこそ、女学校の運動会は内部で伸び伸びと生まれ、やがて地域社会の眼差しさえ変容させる一翼となったのでしょうか。真剣な、楽し気な表情が、少なくとも、彼女たち自身が主体的に運動・スポーツに向き合っていることを物語っていました。そして、それは今回分析対象とできなかった多くの絵葉書の中にも確かに認められました。これらの多様さと奥行きをさまざまな機会に表すことができるよう努めたいと思います。

最後となりますが、駆け出しの私を共同研究者として鍛え、ご自身の研究する姿勢をもって遠く行く先を照らし続けてくださる崎田嘉寛先生に心より感謝申し上げます。また、DNP文化振興財団の助成と頼れる院生室の仲間たちの助力に感謝しています。

学会大会実行委員報告

大会実行委員長 木本 理可（藤女子大学）

北海道体育学会第62回大会は2023年12月9日・10日に藤女子大学花川キャンパスにおいて開催させていただきました。コロナ禍の影響により、2020年度以降は様々な制限の中での実施を余儀なくされましたが、今大会は4年ぶりに懇親会も含めて従来の形での開催が実現しました。交通機関のアクセスが悪くご不便をおかけしたことと思いますが、69名のご参加をいただき、盛会のうちは無事終了できましたことに、心より感謝申し上げます。また、開催校担当の力不足を補っていただきました学会役員の皆様と学生スタッフに深謝いたします。

4年制女子大学での開催は初めてということで、FWU女性研究発表賞など、女性を応援する企画も実施いたしました。教育講演では、「成長期の女子競技者を支えるコ

ンディショニング」と題して、寒川美奈氏（北海道大学大学院）、蜂谷愛氏（天使大学）に、現場での経験に基づいた貴重な話題をご提供いただき、時間が足りないほどの活発な質疑応答となりました。

また、準備や運営にあたり、この4年の間に社会が大きく変化をしたことも実感いたしました。会員の皆様にはご負担をおかけすることになりますが、参加費の見直し等も必要になってきたと感じております。末筆となりますが、次回の苫小牧工業高等専門学校で開催される第63回大会のご盛会を祈念しております。



藤女子大学の大会実行委員と学生スタッフ

研究委員会活動報告

研究委員長 中島 寿宏（北海道教育大学札幌校）

今年度の第62回学会大会では、口頭発表15題とポスター発表4題の発表をいただきました。今年度も活発なディスカッションが行われ、充実した学会大会になったと感じます。大変お忙しい中で会場準備をいただいた藤女子大学の先生方に感謝申し上げます。

また、今年度の若手研究者賞には3題のエントリーがありました。厳正な審査の結果、札幌国際大学の安田純輝先生「発表演題：教職実践演習における定時制高等学校への学外フィールドワークを通じた保健体育科教員志望学生における教員の資質・能力の育成に関する実践的

検討」が受賞されました。授賞理由は、「教員養成課程だけでなく、学校体育現場への貢献が期待できる。また、対象の独自性が高い分、応用研究の可能性が開かれている」「教職実践演習における学外FWを対象とした点に特色・独自性が認められる」などが挙げられました。若手研究者として今後のさらなる活躍が期待されます。今回受賞を逃した方々におかれましても、ぜひこれからも精力的に研究を継続していただければと思います。

また、今年度は北海道体育学会「研究助成」として、「低温環境における運動前の糖質溶液摂取が運動誘発性

低血糖に及ぼす影響（研究代表：池永和奏先生，助成金額 10 万円）」と「熟練者と非熟練者の視線及び認知・判断過程の違いは何か？—突破のドリブルを事例に—」（研究代表：多賀健先生，助成金額 5 万円）の 2 件が採択となりました。ぜひ今後の研究の発展に繋げていただけることを期待しています。研究助成については今後も継続して実施していく予定ですので，多くの方々にエントリーしていただけたらと思います。



若手研究者賞受賞の安田先生の発表の様子

編集委員会活動報告

編集委員長 山口 太一（酪農学園大学）

12 月に北海道体育学研究の第 58 巻をお手元に届けることができました。今巻には，原著論文 1 編，研究ノート 4 編，実践研究 1 編の計 6 編が掲載されています。掲載論文は興味深い論文ばかりです。ご一読ください。今巻も他の編集委員の先生方，著者ならびに査読者の先生方，北海道リハビリの山本さんのお力添えによりスムーズに編集作業が進みました。ご協力ありがとうございました。

委員長としての最終年度もあっという間に過ぎていきます。3 年間でやり遂げられたことは，北海道体育学研究 3 巻の発刊のみで，就任当初に前委員長よりいただいた宿題は次期委員長にそのまま引き継がなければな

らないという悲しい現実です。唯一，委員長として実現できたことは，他の委員の先生方からのご意見と事務局のご協力により，査読謝礼を増額できたことくらいでしょうか？昨年度までは図書カード 1000 円分でしたが，今年度より 2000 円分となりました。これでも査読者の先生方の編集作業のお手間を考えると薄謝かもしれませんが…。

第 59 巻への投稿も 2024 年 3 月末を締め切りとして募集することになります。すでに投稿，査読が進んでいる論文もあります。さらに多くの先生方からの投稿をお待ちしております。また，引き続き，査読者の先生方も編集作業へのご協力をお願いいたします。

広報委員会活動報告

広報委員長 森田 憲輝（北海道教育大学岩見沢校）

さてもうすぐ今期の役員業務の期限を迎えようとしております。この 3 年間いつも作業が後手後手になり，一緒に業務をされる先生方にはご負担ばかりおかけしてしまいました。お付き合いいただいた先生方本当にありがとうございました。

さて，本会の広報としては木本先生が HP を担当し，またメーリングリストでも都度情報を発出してきており，皆さんのお役に立っているかと思います。かくいう私も，何か本会に関連して調べたい情報があるときには必ず本会 HP にいき，内容を確認するという状況です。そういった状況から察するに，おそらく他の全国レベルの学会よりも情報の更新頻度は高く，充実した内容にな

っているのではないかと思います。

広報としてはプッシュ（push）型の情報発出だけでなく，プル（pull）型で情報収集する際に役立つというのは，痒いところに手が届くというか，痒くなったときにすぐ治すことができる良い状態ですので，このまま機能していったほしいと願うところです。

当方は今期で広報委員の任を追えますが，北海道のスポーツ科学・体育科学を支える本会の基盤として引き続き広報委員会を支えたいと思います。皆様におかれましても引き続きご支援をお願いいたします。

事務局より

塚本 未来（東海大学）

平素より学会活動にご協力を頂き誠にありがとうございます。令和3年度から令和5年度まで、木本理可先生（藤女子大学）、秋月茜先生（拓殖大学北海道短期大学）と一緒に事務局業務を務めさせて頂きました。この3年間は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、従来通りに行うことができない場面に多く直面いたしました。会員の皆様に温かく支えて頂きながら進めることができました。本当にありがとうございました。来年度より、会長、役員が改選され新体制となりますが、引き続き本

学会の活動にご理解ご協力賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

2024年度の本学会の事業としては、5月中旬に臨時総会および第3回研究発表会、12月初旬には第63回学会大会が苫小牧工業高等専門学校にて開催が予定されております。ぜひ多くの会員の皆様にご参加、ご発表頂けますと幸いです。本学会に関する詳しい情報は学会HP（<http://www.hspehss.jp/>）やメンバーリストを通じて、随時ご確認頂けますよう宜しくお願いいたします。

【連載：リレーエッセイ】

<道東の釧路から考える>

白川 和希（北海道教育大学釧路校）

道東釧路に来て、はや6年。2018年から5年間釧路短期大学、そして2023年から北海道教育大学釧路校にお世話になっています。体育、スポーツ、遊びの楽しさ、身体活動の必要性、健康課題について伝える活動を、多くの方々の協力を得ながら、地道におこなっております。

今の釧路では何が必要なのか。必要なことは多くありますが、その中でも“自由”と“選択”であると考えています。子どもたちにとっての人的、物的環境の選択肢が少ないことが課題の一つです。そこで、今、この地域にいる人たちが行っている活動を探し出して、参加し、実体験してもらいます。自分たちの自由な発想、たくさん情報の中から“やってみたい”“楽しそう”な活動を

実践することをサポートし、思う存分経験します。そして、なんといっても大自然を存分に活用すること。降雪が少なく、年中風が吹く釧路では、“利雪”ならぬ“利水”“利風”“利寒”（造語）がキーになると考え、構想中です。

地域住民の健康増進のために身体活動量の向上を図っておりますが、特に、科学的に証明されていることが社会に浸透していない現状を目の当たりにしまして、社会実装のための研究が必要と考えています。

皆様にお会いした際には地域の現状や取り組みについてお話しができましたら幸いです。

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

編集後記

今年度の学会大会はほぼフルスペック、コロナ禍前の開催形式に戻りました。何より懇親会を盛大に開催できたこと、改めて発表にとどまらずより深く情報交換や交流が行われたものと感じました。発表演題数は20演題に留まりませんが、コロナ禍オンライン開催時の倍増となり、過去最高の38演題が2017（平成29）年帯広畜産大学開催時に近づくよう、さらに広報にも注力したいところです。

会員数は、コロナ禍で激減し172名となったものの、以後174名、182名と増加し、今年度は185名（正会員165名、学生会員15名、名誉会員4名）となりました。正会員、学生会員数ともに微増ではありますが、2019（令和元）

年が 204 名でありましたので、会員増へ向けて広報はもちろんです、学会としての充実をより図っていきたいところです。

一地方学会ではありますが、それぞれの研究分野で極められた、多くの知見を垣根を越えて得られる場でもあります。委員として出来ることは限られますが、会員の皆様とともに発展できればと思います。最後に、作成にご協力頂きました皆様に心より御礼申し上げます。

広報委員 永谷 稔

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

ご多忙の中、原稿をお寄せいただいた先生方どうも有り難うございました。深く感謝申し上げます。

北海道体育学会ニュースレターNo. 15 令和6年3月14日発行 広報委員会委員長 森田 憲輝

是非ご覧下さい 北海道体育学会公式ホームページ <http://hspehss.jp/>